



「日本髪とキモノ姿でおぞう煮を頂く明子さんとアン・シルビーちゃん(左)」

写真/フリー・カーメラマン 井出保

フランスから單身でやつて
来た「小さな留学生」アン・
ルビー・ハバスちゃん(八つ)
が、元気にハ〇年の新春をい
わき市で迎えた。日本のおね
えさま、田村明子さん(十九)
は、磐女三年生と日本髪にキ
モノの晴れ姿で、オトンとお
せらを頃いて、ちょっぴりしと
やかな正月気分に浸っている。
アン・シルビーちゃんは明子
さんが交換生でフランスに行
っていたときの受け入れ先
の末娘で、明子さんにすっか
りなついて昨年七月、日本に
ついてやって来たもの。

日本での両親、いわき市内
郷町金谷、ノビ、田村建太
長田村保則さん(五〇)、育
さん四〇歳の愛情を一身に受
けて大変なあまえつ、ホー
ムシックどころか、フランス
へ帰つたらもう一度日本のハ
ベ帰つたまゝ、度日本へのハ

「フランスのお嬢さん
いわきの新春
おぞう煮に舌づめみ」

日本での両親、いわき市内
郷町金谷、ノビ、田村建太
長田村保則さん(五〇)、育
さん四〇歳の愛情を一身に受
けて大変なあまえつ、ホー
ムシックどころか、フランス
へ帰つたまゝ、度日本へのハ

ハとママのところへ帰つて来
たいと、へからかわいい表情
をしている。現在平小四年生
ヘラヘラのいわき弁で用語
算数、音楽と学校の課目はみ
んな大好きよ。得意の日本語
の歌「さくらさくら」をう
そ聞いてトきいと、自慢のノ
ドを披露してくれる。明らか
にお嬢さんだ。

明子さんを口暫つてし手に
ハンを使い、おぞう煮を頂き
「とてもしゃれせよ」と語るア
ン・シルビーちゃんは、いわき
に来てこれからとは思えぬほど、
いわきつになり切っている
ようすで、キモノがことはほ
か気に入っている。

フランスへ帰るのは今作じ
月で、毎月、同電話でフラン
スのママとお話をすると、どう
しても日本語とフランス語
がチャンボンになっちゃうと
いを丸くしている。

明けましておめでとうございます

新築
賀中



六段本舗

いわき市字駒崎 〒962-2509 工場☎ 090-8950

訪の一大ドラマ

発掘

にみるいわきの足跡

遠古の歴史と丘の歴史

54年の皇室歴会始の御題は「丘」であった。丘は土地の小高い所という意味である。いわきには丘が多いが、そのなかの一角落でいま大掛かりな発掘作業が進められている。「愛谷遺跡」がそれである。そこでこの丘に…

…スポーツを当て、いわきの先人たちの暮らしぶりを探してみようと思う。そこにはいわきの古い時代の文化…の「急づき」が強く感じられるから不思議である。

いま考古学研究者が中心にいた平安・室町時代までの愛谷遺跡の発掘を行なって、愛谷遺跡の発掘を進めているのは、好間中核工業

團地を造成するので、その前に遺跡の調査をしておくといふのがネライである。

その愛谷の丘は標高八十㍍、よほど偉い丘とみて、繩文時代から弥生・古墳・奈良時代にかけては、はじめこの遺跡を手

集落の跡が出現するのでな

い。

良一平安・室町時代までの

場

一四千四百平方㍍になつて、引き続いていわきの先人が生活していた、何代もの遺跡

よ

う

と

か

た

よ

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う



〈大規模な複合遺跡として貴重な発掘現場〉
50年10月から開始され、約6万平方㍍の広大

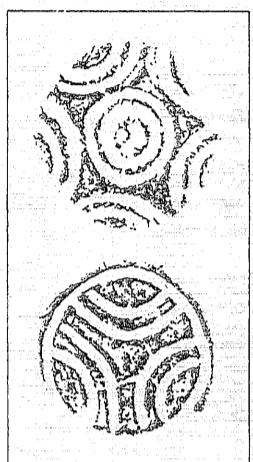
50年10月から開始され、約6万平方㍍の広大な敷地を5ヵ年予定で解明する。

愛谷の丘の縄文時代の文化を物語る証明の一つとして袋身具が使われていたことを、ここで見直してみたいわけである。それは今から五十年前の出土品の中に、いろいろな模様をあしらつたスタンブ状

先人探訪④

愛谷遺跡発掘に見る

古代を今に繩文"耳飾り"



〈耳飾りの拓本〉

は洋の東西を問わず、こ
した單純なバーテンのもの
始まっているのではないか。
例えば幼児教育においても
絵の指導をする際には簡単
幾何学的模様から入ってい

繩文から中世まで長い、
かい人間生の歴史がこ
とにある。

A black and white photograph showing two circular structures, likely eyes, with concentric rings and a dark, textured background.

10,000円(全店)

のは大人の生活のロマンを求めて展開する一つのドラマの追求である。出土する数々の上器・遺物との出会いによって、古い時代の生活のよすがが解明されて行くのは、つまらない。しかし、遺物を調べると、カ、イノシシや鳥の動物や、シイ、クルミ、ドングリなど本の実を食べて暮らしていた跡がはつきりしている。それに夏井川の川魚も食べていい。

して、いたから、男も女もおしゃれをして、『縄文文化』を大切に、張りのある谷らしをしたのではなか？ そんなことを想像せざるはおれない。である。

この耳鉗りのデザインがなかなかおもしろい。この模様は幾何学的で、円形、方形、菱形、三角形といった形を組み合わせているが、古代ギリシャ、エジプト、メソポタミアなどでもこういう図柄を使っていたところを見ると、古代人の共通点として、こういう簡単な渦巻き模様とか、單純な線といったものから、デザインが始まっているようにも受け止められるのである。お

ントのように首からつって下げていたのである。驚いたことにそのデザインが前掲の拓本に示したようになかなかモダンで、現代人にも通用するセンスの良いものであるといふことである。

近ごろ男性の間でループタイが流行しているが、この愛谷から出土した耳飾りをそのままループタイとして使つても現代に立派に通用するし、素材に銀などを用いたら女性のペンダントにもなるようなものばかりである。五十年前の昔にいわきの先人たちがこゝいう立派な耳飾りを作つて、男も女もおしゃれ?をしていたというのは心にくくもあり、生活を楽しむ心得をきちんと持ち合わせていたのであろうか?

愉快な話である。

自由な暮らしをこの丘で営んでいた、と思えてならない。うそしてこの耳飾りは同じ時代のものが大畠貝塚でも発見されているが、いわき地方の各

そうなるとひときわ大きい
ベンダントやイヤリングをつ
けた若者たちが、大木の林の
中で、木の実を拾ったり、狩
猟に夢中になつて歩き回り、
あるいは男女が愛を確かめ合
つたり、子育てに専念したり
していたらうと思う。そんな
自由な暮らしをこの丘で営ん
でいた、と思えてならない。
そしてこの耳飾りは同じ時代
のものが大畠貝塚でも発見さ
れているが、いわき地方の各
掘 う わ き 学 い し

順一氏

（清澄）隆 澄
意味でもこの愛谷の丘の發
は興味津々である。

発掘—消滅は歴史の悲哀?

980

《お菓子》1,000円(全店)
《おもちゃ》1,000円 2,000円 5,000円 10,000円(全店)
《家庭用品》1,000円(全店)
《衣 料》1,000円(内郷店除く)
全 店 / 3,000円(平店のみ) / 10,000円

